

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム 杉 宮

日付 平成19年12月11日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

ホームが設立されて1年間は、2人の管理者は大変苦労している最中であったが、2年近く経過した今日は、管理者の自己研鑽によって、グループホームの特長が自分達の独自性を発揮して、見違えるような利用者の生活の場となった。当時は、毎日眠れない日々が続いたが、今は両管理者の笑顔にも見られるように、職員の協力もあって、自分なりのホームの運営が出来るようになったのだと思う。

ホームの中を見ても、利用者や職員の持っている能力を生かした作品がリビングルームや各居室に貼ってあり、以前より生活感を見せてくれるようになった。利用者への入れ替わりや重症化した姿はあるが、利用者や職員の顔からは、自分らしく生活しているという実感がある。それは、各ユニットで身近な理念という生活目標を管理者と職員で掲げたことにあるのではないと思う。昨年と同様に、健康管理を重要課題にしている事は変わらないが、それぞれのユニットの目標として、しゃぼん玉ユニットは『思いやり、心と心を結ぶ愛の架け橋』、紙ふうせんユニットは『笑顔ニコニコ、毎日ワクワク、楽しい暮らし』を掲げている。昨日出来ても今日はしたくない時もある。何時も同じペースでなく、表情や状態をよく見て、その人の気持ちを大切にしよう。無理にこちらの都合でさせるのは良くない。介助し過ぎはやめて、出来る事は自分でして貰おう。「美味しい顔ってどんな顔」とその場面の利用者の写真を掲示し、利用者の気持ちを写真で表現して、感情を伴った生活をして貰えるようにしている。利用者一人ひとりの気持ちや希望を大切に、それぞれの利用者本位の生活を支援していこうとする職員の姿があちこちで見られた。

両ユニットの間に、広いウッドデッキがある。現在は、このウッドデッキを活用し、両ユニットの架け橋とし、利用者の交流の場となって、両ユニット同士で行き来するようになった。合同で行事や行動が出来るようになり、ますます生き生きとした生活が出来るようになった事も大きい。

地域との交流、家族の来訪もあり、利用者・家族・職員・地域が一体となって、グループホームの生活が飛躍出来た事は大変嬉しい。今後の発展も期待しておきたい。

特に改善の余地があると思われる点

家族や地域との関係は上手い方向で出来つつある。運営推進会議も、認知症などの知識を得て、地域社会に啓発出来るようにする。家族・地域の人・職員が協力して、ホームを支援していく為に如何したら良いか。会議に集まった人が楽しむ。親睦をする。このような3つの目的を持って集まる会議にしてみる試みを考えてみては如何でしょうか。会議というよりは集いという雰囲気、みんなが楽しみにしてもらえようになれば良いと思います。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：地域にもっと理念や運営方針について知って貰いたいと啓発や広報について考えていこうとしている。グループホームの特長を理解して貰い、色々な面で協力して貰う為にはホームの理念を知って貰う事である。このホームの理念は分かり易いので、知って貰い、共感が得られれば、強力な助っ人を得る事にもなるだろう。</p> <p>2、全体的に見て…：「一寸した仕草で、利用者の状態を察して、家庭的で温かい雰囲気にして行こうね。どんどん利用者に関わって行こう」と管理者と職員は自分達の理念を作った。ホーム開設2年目に入って、開設時と混乱期を共に励まし合ってきた職員達は、管理者と職員の垣根を越えて仲が良い。「職員は皆、素直でよく気が付く」と管理者は職員の資質を褒める。</p> | | |

II 生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：特に要改善事項はないが、リビングルームの空間の活用に顕著な展開があり、利用者の生きがい、やりがいの痕跡が見られた。中央にある屋外ウッドデッキも活用され、2つのユニットの交流に役立っている。これらの改善を、今年度は利用者の人間らしい生活に活かしていってほしい。</p> <p>2、全体的に見て…：このグループホームは、外の借景を含めて外部を生活に取り込んでいる。リビングルームの窓越しに、紅葉しかけた山並や、行き交う自動車、直ぐ裏にある畑、池と葎や雑草群等の自然がよく見える。ウッドデッキの花のプランターも大切に育てている。職員やボランティアの人が丹精に育てた野菜は、ホームの食材として、利用者の腹に納まる。外からの刺激が、利用者の心を豊かにしてくれる。</p> | | |

III ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人のできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にしたい整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物の支援 | | |
| 23 | 認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：認知症ケアの基本をもう一度改善していこうとする意欲が改善事項にあげてありホームの型が少し見えて、ホームの独自性を出して行こうとするこの時期に、介護計画作成上の課題と認知症の方の心のケアの改善に努力していこうとする管理者や職員のしなければならぬ仕事への取り組み姿勢に賛同する。重要な事項であり、波及効果の高い改善事項に私共も協力していきたい。</p> <p>2、全体的に見て…：足腰の力をつけて、元気に暮らして貰いたい。人間、起きて、歩いて過ごせる幸せは誰でも望む事である。リビングルームや廊下に手摺があり、手摺の配置も工夫されており、利用者は手摺を上手く使って、歩行、立って足踏み、足を上げる等、自分に合ったりハビリをする。車椅子を使っている人も手引き歩行でトイレに行く。それぞれの人が意欲を出して機能回復に励んでいた。</p> | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 災害対策 | | |
| 33 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 34 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 35 | 運営推進会議を活かした取組 | | |
| 36 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 37 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 | | |
| 記述回答 | <p>1、自主評価について…：特別な改善事項はないが、この一年間に地域との交流は一つひとつ積み重ねて良い関係を作り出している。家族とも情報交換したり、利用者の生活ぶりを報告している。ホームでは、管理者と職員が協力し、このホームの独自性を発揮してきた。今後は、今まで培ってきた運営方針を先ず定着させる事が大切だと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：この一年間で、ホームの管理者や職員が明るく、生き生きしてきた事である。今まで苦労してきた諸事項の改善や定着によって、ホーム運営と利用者の暮らしの支援に自信が付いてきたのだと思う。そして家族や地域の皆さんから信頼されるようになり、このホームに何らかの形で支援していきたいという気運が現れたと思う。これから運営推進会議もざっくばらんとした雰囲気の中でホームに根付いた運営に期待しておきたい。</p> | | |